みのむかし話

その9

吉津のむかし話

赤坂の首斬馬

尖山（山条山）のふもとに、上池、中池、下池という三つの池があります。このあたりの山の土は、赤褐色なので赤坂とも呼ばれていました。ここは、むかしから首斬馬が出るとおそれられていました。

むかし、こわいもの知らずと威張っていた馬方がいました。

ある月夜の晩、馬を引いて吉津の赤坂あたりを通ると、一人の男が現れました。

「こわいもの知らずは、おまえさんかい？」男が聞くと、

「ああ、そうだ」と言う、

「それじゃ、これはどうかね」と言って男は、

血のしたたる馬の首を次々と坂の上に並べはじめました。

さすがのこわいもの知らずの馬方も、肝をつぶしました。無我夢中で逃げる途中、一軒の家を見つけて「助けてくれ～」と救いをもとめました。

すると男が出てきて、馬方の話を聞き、

「首斬馬とはこれかね？」と血だらけの馬の首を出しました。

馬方は、ますます驚いて逃げ回っているうちに夜が明けました。

ふと気がつくと、すごく高い所に来ています。

よくみると、そこは火上げ山の中腹でした。

赤坂とは山条山のふもと、中池の東の坂のことで、赤坂と背中あわせのところに梅の塚があるといわれていました。

むかし、尖山（山条山）に城を築いていた片山民部という武士が、長曾我部元親の軍と戦って敗れ、長曾我部の軍は片つぱしから民部方の馬の首を刎ねたので、首斬馬の伝説がうまれたのだということです。

参考文献：三野町文化史2（三野町の民俗平成一七年発刊）二一五～二一六P
三野町誌（昭和五五年発刊）一〇二八P

吉津片山の赤坂と中池